

静岡県試験研究 10 大トピックス (農林技術研究所)

タイトル	白葉茶の開発	研究期間	平成 21～25 年度
研究所 所 属	農林技術研究所 茶業研究センター 栽培育種科	補職名	上席研究員
		研究者名	小林栄人
		問合せ先	0548-27-2884
研 究 概 要	<p>【背景・ねらい】</p> <p>光制御による茶の香味成分の増強技術を開発し、静岡茶及び県内茶関連産業の発展に寄与する。なお、本研究は静岡県・静岡市 地域結集型研究開発プログラム「静岡発 世界を結ぶ新世代茶飲料と素材の開発」により実施した。</p>		
	<p>【成果の内容・特徴】</p> <p>1. 新芽の生育期に被覆資材を用いて強遮光（100%遮光）することにより、新芽が黄白色となり、旨味成分のアミノ酸含量が通常の緑茶の 2～3 倍に増加する「白葉茶」の生産技術を開発した。</p> <p>2. 同技術は緑茶用品種から紅茶用品種まで様々な品種に適用できるため、県内の全茶園で利用可能である。</p> <p>3. 平成 23～24 年度に J Aハイナンで白葉茶の現地実証試験を行い、平成 24 年 12 月に「白葉美人」の商品名（商標登録）で白葉茶が商品化された。</p>		
	<p>【成果の活用・留意点】</p> <p>1. 強遮光による白葉茶の生産技術は、茶樹へのストレスが大きいため収量が低下する。</p> <p>2. 市販の被覆資材を用いる場合は 3 重被覆する必要があるが、1 枚被覆で白葉茶が生産できる白葉茶専用の強遮光資材を開発しており、平成25年度に資材の効果を検証する。</p>		

* 図、写真などについては次頁に添付をお願いします。

様式 1



写真1 白葉茶の生産の様子
注) 被覆資材を用いて強遮光



写真2 遮光程度の違いと新芽の葉色の比較
注) 左：適度な遮光、右：強遮光（白葉茶）

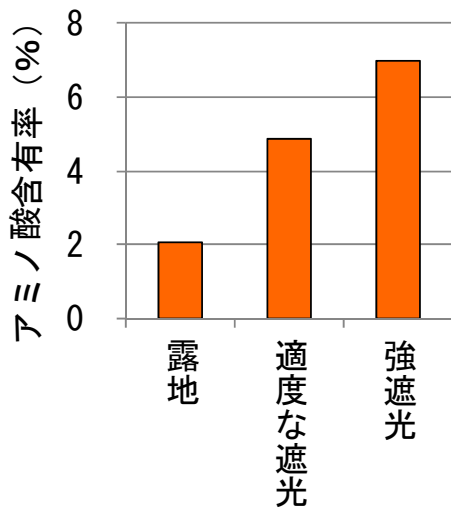


図1 遮光度の違いと新芽のアミノ酸含有率の比較

注) 露地＝通常の緑茶、強遮光＝白葉茶

うま味をアップ
「白葉茶」商品化

JAハイナン販売開始

25日から販売が開始された白葉美人

(H24.12/26 静岡新聞)

政治経済しずおか

富裕層や若者狙う

JAハイナンは25日、摘採前に日光を遮断し葉を白化させて旨味成分をアップさせた「白葉茶（はくまぢや）」を商品化した。「白葉美人」の販売を開始した。苦味や渋味を抑え、甘みが増した優しい味わいが特徴で、富裕層や若者を中心に需要拡大を狙う。

白葉茶は摘採前に茶通常の茶に比べ、2〜3茶数と素材の開発」園を遮光ネットで3重3倍増加した。同じ一選で、県農林技術センターに覆って100%日光Aは、地域特産型研究「研究所茶業研究センター」を遮断し、葉を白化開発プログラム「静岡、静岡大、県立大」させた。日光を完全に遮断し、世界を冠心新世代と兵団研究に取組んで販売される。

同JAの担当者は「透明なコップに注いで、水を薬しみがから飲んでほしい」と話している。白葉美人は300円千円、一般パックの価格は200円。

JAハイナン茶業センター（牧原市）と同JAファミリーズマーケットで販売される。